

要約 京都の経営経済動向調査結果 (2017. 3. 21)

－2017年1～3月期実績と2017年4～6月期及び2017年7～9月期予想－

京 都 商 工 会 議 所
担当：中小企業経営支援センター
電話 (075) 2 1 2-6 4 6 7

国内景気、自社業況ともに下降 ～労働力不足や不透明な先行きに対する慎重な姿勢が広がる～

概 要

今期の国内景気BSI値は▲4.7（前期実績▲2.2）と下降幅は拡大するものの、前回予想値（▲7.4）よりも、マイナス幅が縮小する結果となった。今後の4～6月期は1.8と若干持ち直すが、続く7～9月期は▲1.2と再びマイナスに転じ、一進一退の状況が続く。

自社業況は、精密機械など製造業の一部において前期予想を上回る上昇となるも、全体としては秋の需要期からの反動によりBSI値▲8.1（前期実績5.6）と大幅に下降し、マイナスへ転じる結果となった。今後の4～6月期は、春の観光シーズンを迎える旅館・ホテルが上昇を牽引、そのほか幅広い業種において改善傾向がみられるものの力強さが感じられず、BSI値は0.4を予想している。続く7～9月期には、商業・サービス業を中心に業況は後退し、BSI値▲2.3と再びマイナスへ転じる見込みであり、労働力不足や経営環境の変化に対する懸念が先行きに対する不安感となって表れている。

（注）1月の下旬から2月の中旬にかけて同調査を実施し、575社中426社から回答を得た（対象は、京都府内に本社、本店などを持つ企業）。また1～3月期のBSI値は、2016年10～12月期の景況感を基準に強気なら「プラス」、弱気なら「マイナス（▲）」で表している。算出方法は、上昇回答から下降回答を差し引き、2分の1を乗算。

I 国内景気動向

2017年1～3月期は、「上昇」とした企業12.1%（前期実績14.5%）、「下降」とした企業21.5%（前期実績18.8%）、BSI値は前回予想値▲7.4を上回るものの、▲4.7（前期実績▲2.2）と、下降幅が拡大した。今後の4～6月期は1.8と上昇に転じ、続く7～9月期は▲1.2と再び下降に転じる見込みとなっている。

II 企業経営動向

自社業況（総合判断） 2017年1～3月期は、「上昇」とした企業19.8%（前期実績33.2%）、「下降」とした企業36.0%（前期実績22.1%）、BSI値▲8.1（前期実績5.6）と大きく下降に転じた。今後の4～6月期のBSI値は0.4とほぼ横ばいで推移するものの、続く7～9月期は▲2.3と再び下降する見通しとなっている。

1. 生産・売上高、工事施工高 2017年1～3月期は、「増加」21.5%（前期実績37.1%）、「減少」38.7%（前期実績22.6%）、BSI値▲8.6（前期実績7.3）と大きく減少した。今後の4～6月のBSI値は2.0と増加するものの、7～9月期は▲3.7と再び減少に転じる見込みとなっている。

2. 製・商品・サービス・請負価格 2017年1～3月期の製品価格、商品価格、サービス価格、建設業請負価格を総合的に見ると、「上昇」6.0%（前期実績11.2%）、「下降」10.3%（前期実績7.3%）、B S I 値▲2.2（前期実績2.0）と減少した。今後の4～6月期のB S I 値は2.3と上昇するが、続く7～9月期は▲1.2と再び下降に転じる見通しとなっている。
3. 経常利益 2017年1～3月期は、「増加」20.4%（前期実績32.0%）、「減少」38.9%（前期実績25.2%）、B S I 値▲9.3（前期実績3.4）と大きく減少に転じた。今後の4～6月期のB S I 値は▲0.2とほぼ横ばいで推移し、続く7～9月期も▲4.8と減少が続く見込みとなっている。
4. 所定外労働時間 2017年1～3月期は、「増加」18.2%（前期実績27.0%）、「減少」22.6%（前期実績9.5%）、B S I 値▲2.2（前期実績8.8）と減少した。今後の4～6月期のB S I 値は▲1.6、続く7～9月期も▲2.4と減少が続く見込みとなっている。
5. 製・商品在庫 2017年1～3月期は、「適正」とする企業が79.1%（前期実績76.8%）、「過剰」とする企業が15.2%（前期実績18.1%）、「不足」とする企業が5.7%（前期実績5.1%）、B S I 値4.8（前期実績6.5）と概ね適正水準で推移したが、引き続き一部に過剰感が見られている。今後の4～6月期は「適正」が87.2%、続く7～9月期は91.4%と、徐々に改善する見込みとなっている。
6. 資金繰り 2017年1～3月期は、「改善」とする企業が7.6%（前期実績11.8%）と減少、「悪化」とする企業が12.3%（前期実績9.8%）と増加し、B S I 値が▲2.4（前期実績1.0）と悪化した。今後の4～6月期のB S I 値は0.6とほぼ横ばいで推移し、7～9月期は▲2.2と再び悪化する見込みとなっている。

Ⅲ 当面の経営上の問題点

第1位は「受注・売上不振」（46.0%）、第2位は「求人難」（30.8%）、第3位は「過当競争」（24.9%）、第4位は「人件費負担増大」（20.2%）、第5位は「技能労働者不足」（18.8%）、第6位は「製・商品（請負）価格安」（17.1%）と、いずれも前回調査と同順位であった。

B. S. I. 値の総括表		実 績		予 想	
		2016年10～12月期	2017年1～3月期	2017年4～6月期	2017年7～9月期
国内景気動向		▲ 2.2	▲ 4.7	1.8	▲ 1.2
京都企業の経営動向	自社業況（総合判断）	5.6	▲ 8.1	0.4	▲ 2.3
	1. 生産・売上高、工事施工高	7.3	▲ 8.6	2.0	▲ 3.7
	2. 製・商品・サービス・請負価格	2.0	▲ 2.2	2.3	▲ 1.2
	3. 経常利益	3.4	▲ 9.3	▲ 0.2	▲ 4.8
	4. 所定外労働時間	8.8	▲ 2.2	▲ 1.6	▲ 2.4
	5. 製・商品在庫	6.5	4.8	4.3	3.2
	6. 資金繰り	1.0	▲ 2.4	0.6	▲ 2.2

※ B. S. I. 値 = (上昇 [増加、他] - 下降 [減少、他]) × $\frac{1}{2}$